

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	三重大大学				
取 組 名 称	三重大ブランドの環境人材養成プログラム				
取組学部等	全学				
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A11040	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	環境教育				
キーワード	環境資格支援教育プログラム, 国際環境教育プログラム, 環境PDCAシステム, 環境人材, 三重大ブランド				

<選定理由>

本取組は、現在環境問題は、地球規模できわめて重要であるが、それに取り組む三重大独自（三重大ブランド）の環境スペシャリスト育成構想である。

環境問題への取組は、重要性がわかっているにもかかわらずなかなか進まないのが実情で、難しい点が多いが、それにあえて取り組む先進性が評価される。またそれを国際的に展開しようと、アジアを中心にした海外諸国の大学、学生とも連動しているが、環境問題への視点や取り組み姿勢に各国の間や、先進・途上国の間で大きな差があるなどの難しさを超えて、あえて挑戦しようとしていることが評価される。

本取組の中には、学生の感じる力、考える力、生きる力、さらには語学を磨いて広いコミュニケーション能力を身につけさせる意図が見られるものであり、全学、全学部にわたる取組であることも評価できる。

このような専門家に対し、今後どこでどれだけの需要があるかまだ未知数であるが、本テーマには今取組むこと自体が重要である。

ただし、取組の実施に際しては、英語力の育成、学部ごとの学生への育成上の重点の置き方等に課題があり、今後工夫が必要と思われる。

取組の概要【1ページ以内】

地球温暖化問題などの国際的な環境問題やアジア各国の環境破壊や公害問題も危機的な状況となり、次世代の担い手を養成する大学教育での環境教育プログラムは、地域や時代のニーズを汲んだ実践的環境教育の展開が必要不可欠となる。これからの大学は、「持続的発展と環境保全」という狭間で、将来に向けて力強く生き抜いていくための対策戦略や実践活動を積極的に行うリーダーシップのとれる**環境人材**の育成を緊急の課題としている。

三重大学は、平成20年から共通教育及び学部横断的専門教育における環境関連授業科目の充実と企業・行政・環境NPOの連携による環境インターンシップの実施及び環境資格取得を見据えた**環境資格支援教育プログラム**などを実施している。本取組は、現在の**環境資格支援教育プログラム**の更なる充実化による**環境人材**の育成 **国際環境教育プログラム**の確立と実施による世界に通用する国際環境人材の育成 プログラム修了時に取得出来る環境内部資格を、地域で活用できる**三重大ブランド**の環境資格として育て上げることで、環境教育を題材とした質の高い環境教育プログラムの構築と**環境PDCAシステム**を確立することにある。

本取組の特徴は、三重大学学則及び中期教育目標に合致した**環境資格支援教育プログラム**および**国際環境教育プログラム**を構築・運営することで、共通教育において多様な履修歴を持つ学生に対して環境を理解させるための基礎教育の強化を図り、環境スペシャリストを養成するための専門教育の充実化を行うと共に、国際的に通用する国際環境人材を養成するために、アジアパシフィック地域の8大学との環境コンソーシアムを構築して国際環境教育の強化を図ることにある。また、大学教職員と同じ構成員の立場を与える環境ISO14001のマネジメント運用を、プログラムの一環として活用した環境内部監査の実施は、単に事務的な運用に止まらない極めて斬新なものである。さらに本取組は、三重大学中期目標と合致した形で遂行されることから、本取組と同様に三重大学中期目標に沿って組まれている各学部の「環境教育」に関係する授業群や教育方針と完全に合致して遂行されるのも大きな特徴となっている。

本取組の評価は、既に各学部で実施している第三者評価システム及び全学教務委員会の評価システムを活用する一方、社会のニーズを考慮した学外の企業・行政・教育機関からなる委員会を組織し、既存のPDCAシステムをベースにした学内外から環境人材育成内容と成果を評価する

環境PDCAシステムを構築し運用する点でも新しい試みである。本取組の成果は、学内環境資格制度と社会に通じる環境技能・資格の支援を行うことで評価を実証できることが強みであり、大学教育機関としての持続可能な社会構築に寄与できる大学の社会的責任(USR)を十分に果たすことが期待できる。

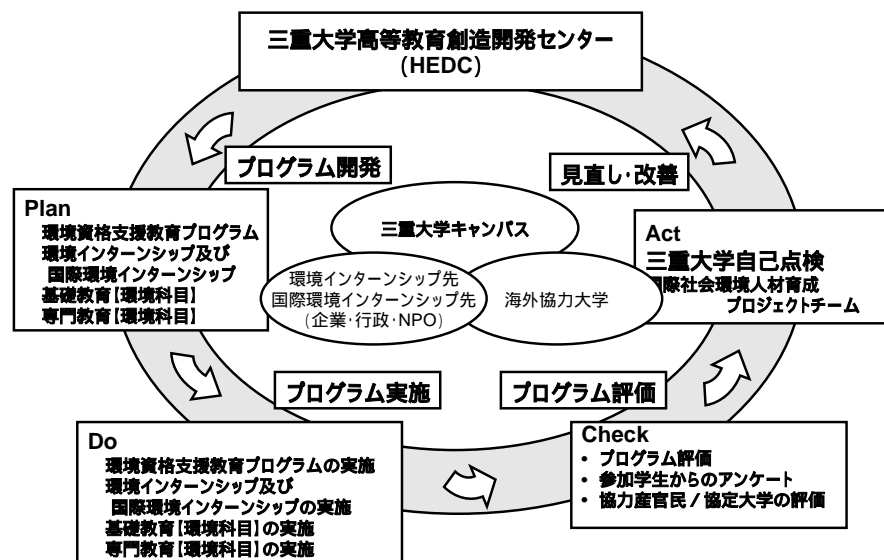


図1 本取組のPDCA実施体制